

■ 県民講座 2006

| 回   | 日時                 | テーマ                       | 講師(敬称略)                                   | 内容   |   |
|-----|--------------------|---------------------------|---|--|---|
| 第1回 | 人権全般<br>7月29日(土)   | 13:00～<br>13:10～<br>14:40 | 開講式・リエンテーション<br>人権啓発に、メディアの果たす役割          | フリーライター・ディレクター<br>松本 眞理子                   | 人権啓発においてメディアに何が出来るのかを模索しながら、福岡市の人権啓発ラジオ番組「こころのオルゴール」シナリオ制作、エフエム福岡の障害者番組「ふれあいスタジオ」制作などにあたってきた二十数年間。その間のエピソードや新しい発見、出会い、そして実感。  |
|     |                    | 14:50～<br>16:20           | 差別の現実に出会って、学んで、自分みがき                      | 筑紫野市教育委員会<br>教務課(人権・同和教育担当)<br>長野 健一       | 「差別をしない」という当然のことにとどまらない、その先にある何かに魅せられて、同和問題にこだわりつけています。差別によって流した涙をぬぐい起ちあがる人、差別に傷つき倒れそうな人によりそう人...わたしのために泣いてくれる人...そんな素敵な人たちとの出会い、学び、そして、自分みががかれていく...差別の現実から出発して、人間本来のすばらしさに気づき合っていけば、と思います。  |
| 第2回 | 同和問題<br>8月19日(土)   | 13:00～<br>13:10～<br>14:40 | リエンテーション<br>皮(革)に生きて50年                   | 西御着総合センター皮革資料室委員<br>柏葉 嘉徳                  | 人類が身に付けた始めは毛皮である。<br>皮(革)は生きている。<br>なめし技術がいかに難しいかを知っていたらだければと思います。  |
|     |                    | 14:50～<br>16:20           | 人権を考えることは自分さがし                            | 福岡教育大学<br>助教授 金 泰泳                         | 「人権とは大切なものである」という意見に反対の方はいないと思いますが、それが私たちの日常生活とは少しはなれた、ともすれば「宙に浮いた」、せまい意味での「人権」ととらえられがちではないかと思えます。人権とは生活だと思えます。そのことを皆さんとじっくりと考えていきたいと思います。  |
| 第3回 | 外国人問題<br>9月23日(土)  | 13:00～<br>13:10～<br>14:40 | リエンテーション<br>サラン～短歌にみる在日コリアン～              | 歌人、歌集「サラン」の著者<br>キム・英子・ヨンジヤ                | 「在日はいるかと問える同胞の講師に拳手せり涼し目の男子」(「サラン」より)<br><br>一韓流から韓国への高い関心が生まれた一方で、在日コリアンについてはあまり知られていません。歌集「サラン」の朗読とともに、短歌に沿って個人史にふれながら、多様化する在日韓国人のうちの一人としてお話ししたいと思います。  |
|     |                    | 14:50～<br>16:20           | 地域での異文化間交流<br>～共に暮らす楽しさと難しさ～              | 九州大学大学院人間環境学研究院<br>教授 吉谷 武志                | 地域社会で共に暮らすということは、長く日本に住んでいる人同士でも、出身地域や生育環境、また年齢や性別が異なれば、時には紛争が起きるものです。いわんや言語、宗教、生活習慣など、いわゆる「文化」の違いがあれば、問題が起こりがちです。しかしながら、ちょっと視点を変えてみましょう。同じ人同士、楽しく暮らす工夫はあるものです。福岡の多文化住民の間の「ともに生きる」試みを紹介したいと思います。  |
| 第4回 | 子ども問題<br>10月21日(土) | 13:00～<br>13:10～<br>14:40 | リエンテーション<br>子どもを取り巻く、うつ状況を拓く              | 児童養護施設洗心寮心理職<br>山口 祐二                      | いじめ、ひきこもり、虐待、うつ、自傷、自殺など様々な形で追い込まれている子どもたち。その背景にある大人社会の問題を少しずつ解きあかしたいと思えます。この状況を打開するためにどのような方策があるのか。まず、私たち大人自身が自分を大切にし、心をひらき、人とのつながりを取り戻していくことが必要なのではないでしょうか。  |
| 第5回 | H1V感染者・ハンセン病患者等    | 13:00～<br>13:10～<br>14:40 | リエンテーション<br>ともに生きる<br>～病と、自分と、周りの人達と～     | 独立行政法人国立病院機構<br>九州医療センター感染症対策室             | カウンセラー 辻 麻理子 発見当初は治療法もなかったH1V感染症は致死の病と言われていた。しかし、それから20年余り経った今では、抗H1V薬の開発により、医学的コントロール可能な慢性疾患と言われるようになった。だが、根本的治療がないこと、長期服薬やその副作用、そして未だ癒えない偏見差別は病を抱えながら生きることを困難にしている。今回は、感染者、患者さんの想いを交えながら、共に生きていくことを考えていく。   |
|     |                    | 14:50～<br>16:20           | 内なる差別意識を問う                                | 株式会社 熊本放送 報道制作局<br>テレビ制作局<br>ディレクター 井上 佳子  | 「差別はいけない」「人権を尊重しよう」誰でも、高いところ、離れたところからは声高に叫ぶことができますが、問題が自分自身にふりかかってくる時、自分は嫌だ、できれば避けて通りた、と思ってしまうこと。これこそがそれぞれの中にある差別意識ではないでしょうか。<br><br>自分の中にある差別意識に向き合うこと。これが、他人を尊重する第一歩になると考えます。これまでのハンセン病問題取材を通して自らを見つめ直すことの大切さを考えたいと思えます。                            |
| 第6回 | 障害者問題<br>12月16日(土) | 13:00～<br>13:10～<br>14:40 | リエンテーション<br>ノーマライゼーションが具現化しない<br>国一日本     | 筑紫女学園大学 文学部<br>人間福祉学科<br><br>助教授 山崎 安則     | 「国際障害者年」(1981年)以降、ノーマライゼーションという理念が広まり、福祉全般にわたる理念として社会に浸透したかのように見えますが、偏見や差別は一向に解消されたとはいえず、障害者が地域社会で自立した生活を営むうえで必要なサービスや社会参加の機会が十分に保障され整備されているとはいえません。なぜ、25年を経てもノーマライゼーション理念が、わが国に定着し結実しないのか。ノーマライゼーション理念発祥の国、デンマークからその本質を学んでいます。                       |
|     |                    | 14:50～<br>16:20           | 障害者ってなんだらう<br>歌って笑って<br>人権コンサート           | 久留米大学 社会福祉学科<br>非常勤講師 山下 恭平                | 『「自分」～限りある命～』♪<br><br>限りある命 限りある人生 自分を好きになり 自分を大事にし そうすれば 他人を愛せる/<br><br>思いっきり大きく叫べ 一杯自分を訴えよ 体はどんなに動かなくても そうすれば他人の心は動く/<br><br>自分を信じ生きよう ひたすら前に向かって 姿はなく 音がなくてもそうすれば 他人はついていく/<br><br>自分に素直になろう 悔し涙は忘れて 自分の体・心・生き方を愛し そうすれば 他人はあなたを包む/<br>～以下省略～      |
| 第7回 | 人権全般<br>1月27日(土)   | 13:00～<br>13:10～<br>14:40 | リエンテーション<br>朝鮮の歌や踊りハナコンサート<br>(とんぼアリアンほか) | 福岡朝鮮歌舞団                                    | 5千年の悠久の歴史に育まれ輝かしい文化を創造してきた朝鮮民族は、古くから歌と踊りを愛し、芸術に親しんできました。私たちが在日朝鮮同胞もまた、異国の地にあつて民族の伝統文化を受け継ぎ、祖国の芸術を花咲かせています。私達福岡朝鮮歌舞団は、1966年に結成され、今年で満40周年を迎える事になりました。メンバーは日本で生まれ育ち、朝鮮の歴史や文化を大切に教育を受けてきた在日同胞3世で結成されています。朝鮮と日本との真の友好のために、美しく躍動的な民族芸術を、舞台いっぱい繰り広げたいと思います。 |
|     |                    | 14:50～<br>16:20           | 唄がしから見た人々の暮らし<br>(声・こぶし・詩)                | 民謡歌手(フォルトワークス/ヤハン<br>「民族芸能伝承学舎」)<br>伊藤 多喜雄 | 唄を探して歩く。<br>暮らしの中での唄の役割。生活史。人々の営み。その胸の内を、唄を軸として描く。<br>地の底からひびいてくる人々の唄声は家族、故郷を守り、生き続けさせてくれている。<br>実演を含めて 民謡をさぐる。   |
|     |                    | 16:20～                    | 閉講式                                       |  |   |